

事業所名

放課後等デイサービス こだま

支援プログラム（参考様式）

作成日

令和8年

2月

4日

法人（事業所）理念		児童が楽しく日々を送れるように、また様々な場面でも個々の能力を最大限に発揮できるように支援します。無限大に広がる子どもの才能を引き出し「らしさ」を育てる支援をさせていただきます。											
支援方針		発達につまずきのある児童の多くは感覚が統合されていない場合があり、運動することが苦手な場合も多くみられます。保護者の方々の中には、「集団生活を上手く送ることができないのではないか」、「他に迷惑をかけていないか」など不安に感じられる方もいらっしゃるかと思います。そんな不安を少しでも解消し安心して社会生活を送ることができるようになる為、こだまではその子に合わせた個別療育プログラムや集団療育プログラムに取り組みます。学校の宿題や様々な学習を行うことで脳の発達を促し、身体を動かして能力を向上させることで遊びや学校生活がより楽しくなる。これらの過程をふまえて、無限大に広がる子どもの才能を引き出し、「らしさ」を育てる支援をさせていただきます。発達につまずきのある児童に対する療育を行う当放課後等デイサービスでは、将来の就労を視野に入れてあらゆる支援を行います。児童が楽しく日々を送れるように、また様々な場面でも個々の能力を最大限に発揮できるように支援致します。学校で頑張っていることを自分のペースで確実に成功体験へと繋げ、自信を持って学習や運動に取り組んでもらえるようにすることを一番の目的とし、職員もまた児童と共に歩み成長していける施設を目指します。											
営業時間		平日	9	時	30	分から	18	時	30	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
		学校休業日	9	時	00	分から	18	時	00	分まで			
支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	身辺自立に向けた取り組み（トイレ、着替え、荷物の管理など）・ソーシャルスキルトレーニング（毎日）・こだま商店でのお買い物療育・個別課題（時計・スケジュール・お金など）プログラム（工作・公園・クッキング【おやつ・昼食】・駄菓子屋さんへの買い物）を通して、明るく元気で、自分自身の考えで健全な毎日を送るために必要な生活習慣やスキルを育む。											
	運動・感覚	公園・リトミック・おでかけにてしっかり体を動かす活動を行っている。公園へ行けない場合は、室内遊びに変更し、集団遊びをしている。ソーシャルスキルトレーニング（毎日）・スヌーズレン遊び など。保有する視覚・聴覚・触覚などの感覚を十分に活用できるよう、遊びなどを通して支援を行う。											
	認知・行動	集団での活動時間と、自由時間のメリハリをつけ、決まった時間に決まった活動を周りのお友達と一緒にするという集団療育を基本としている。自分の気持ちをうまく相手に伝える訓練。トラブルやハプニングを自分の力で乗り越える力をつける訓練。環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。認知の特性を踏まえ、情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。											
	言語 コミュニケーション	視覚支援（個別スケジュール・集団スケジュール・月間プログラムスケジュール【写真付き】）・送迎表【乗車の指示書】・席順など）・工作 クッキングの工程表・リトミックでの読み聞かせ ソーシャルスキルトレーニング（毎日）・発語のない児童に対しては、ボックスやマカトンサインを使って、本人の気持ちを聞き取る支援を行っている。「手伝ってカード」を訓練室に複数掲示し、手伝ってほしい時は常時使えるように準備している。終わりの会では、その日一番楽しかったことを振り返り、ひとりずつ発表してもらう。言葉で伝えることの楽しさや喜びが多く感じられるように、児童に寄り添い、丁寧な聞き取りや受け止めをしていく。伝えたい気持ちを大切にしていける。コミュニケーションツールを適切に選択、活用し、意思の伝達がうまくできるように支援する。											
	人間関係 社会性	集団療育にて、集団での活動を行う。全体で活動する場面と、小集団で活動する場面に分けている。異年齢や地域外のお友達との関りや、交流が積極的に行えるように工夫している。ソーシャルスキルトレーニング（毎日）・年代ごと、それぞれの発達段階に応じて個別に必要な支援を行う。日常のいろいろな取り組みの中で、身近な人と関わる楽しさや、人と関わる上で必要なスキルやルールを学んでもらう。また社会生活を送るために欠かせない、協調性や自立心も養う。集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。											
家族支援		学校、児童館、児相、京都市子ども家庭支援課、西京区はぐくみ室、支援センターうきょう、支援センター西京、相談支援事業所等との連携。保護者の悩み相談。必要に応じて各機関への連携。						移行支援		地域の駄菓子屋さんへの買い物。近隣の公園へのおでかけ。近隣住民の方やマンション住民の方との交流。マンション住民の方との避難訓練。			
地域支援・地域連携		川岡学区子育て支援連絡会に所属。川岡児童館のイベント参加。京都市西部障害者地域自立支援協議会 児童部会に所属。令和元年度～4年度運営委員。まちづくりプラザ交流室（西京区）の利用（クッキング・ガタゴト）。						職員の質の向上		毎月1回社内研修にて、研修受講（全員）。事業所ごとに研修を実施。個別に京都市主催の研修、地域リハビリテーション推進研修講座を受講。			
主な行事等		お誕生日会・夏祭り・ハロウィンパーティー・クリスマス会・忘年会など。季節に合わせた行事を行っている。土曜日はいろいろな場所へのおでかけを実施。夏休みは野外活動11回実施。音楽コンサート鑑賞や工場見学、共同作品の制作（昨年度 こだま看板・木製カレンダー / 今年度 荷物棚）令和6年12月 川岡児童館の55周年記念イベントに参加。令和7年12月 1週間の参観期間を設け、保護者に自由に出入りしてもらい、お子様の様子を参観していただいた。保護者同士の交流も同時に行った。											